



2026年3月12日

各位

会社名 EIZO 株式会社
代表者名 代表取締役社長 COO 恵比寿 正樹
(コード番号 6737 東証プライム)
問合せ先 取締役 常務執行役員 経理部長
兼 IR 室長 有生 学
電話番号 076(275)4121

中期経営計画の数値目標の見直しに関するお知らせ

当社は、2026年1月30日発表の「中期経営計画見直しに関するお知らせ」のとおり、2024年5月9日に公表しました第8次中期経営計画に関しまして作成時に前提とした事業環境が大きく変化したことから進捗レビューを実施し、2026年3月12日開催の取締役会において、最終年度である2027年3月期の数値目標を下記のとおり見直しすることを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 最終年度(2027年3月期)における数値目標の見直し

	当初計画 2024年5月9日発表	見直し後 2026年3月12日発表
売上高	1,000億円	850億円
営業利益	120億円	33億円
営業利益率	12.0%	3.9%
ROE	8.0%	3.1%

2. 見直しの背景

主要市場である欧州市場の低迷が長期化しており、需要回復には引き続き時間を要する見通しです。加えて、日本の病院経営悪化の影響による需要の先送りや地政学リスクの高まりなど、当初計画策定時より事業環境が大幅に変化しました。このような状況下、B&P、ヘルスケア、クリエイティブワーク市場向けを中心に売上高は当初計画を下回ることが見込まれることから、中期経営計画の最終年度(2027年3月期)の数値目標を見直すことといたしました。

2027年3月期の業績策定にあたっては、次のとおりの前提条件に基づいております。

B&P 及びクリエイティブワーク市場向けについては欧州市場の急回復を前提とせず、販売は横ばいで推移する見込みです。V&S 市場向けについては、堅調な需要を背景に受注案件の積み上げが進んでおり、今後も成長が見込まれることから、グループ全体の収益回復をけん引する事業として位置付けております。ヘルスケア市場向けについては、日本では病院経営の悪化の影響を受け、引き続き慎重な需要動向を見込んでおります。一方、販売が底打ちした海外では、主力の欧州に加え、北米、中国、インド、中東を中心に事業展開を強化することで、販売回復を見込んでおります。

コスト面では、継続的なコストコントロールに努めてまいります。賃上げや研究開発投資など中長期的な成長に必要な投資は継続してまいります。一方、固定費の合理化の取組みにより、固定費水準は2026年3月期並みに抑制する計画としております。

また、2027年3月期を「稼ぐ力の回復」の年と位置付け、収益基盤の再構築に注力するとともに、2028年3月期を初年度とする次期中期経営計画においては、持続的なROE向上に向けたロードマップを提示してまいります。

詳細につきましては、添付資料をご覧ください。

(注)上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上



第8次中期経営計画 数値目標見直し (1月30日開示資料のアップデート)

2026年3月12日

東京証券取引所プライム市場

証券コード:6737

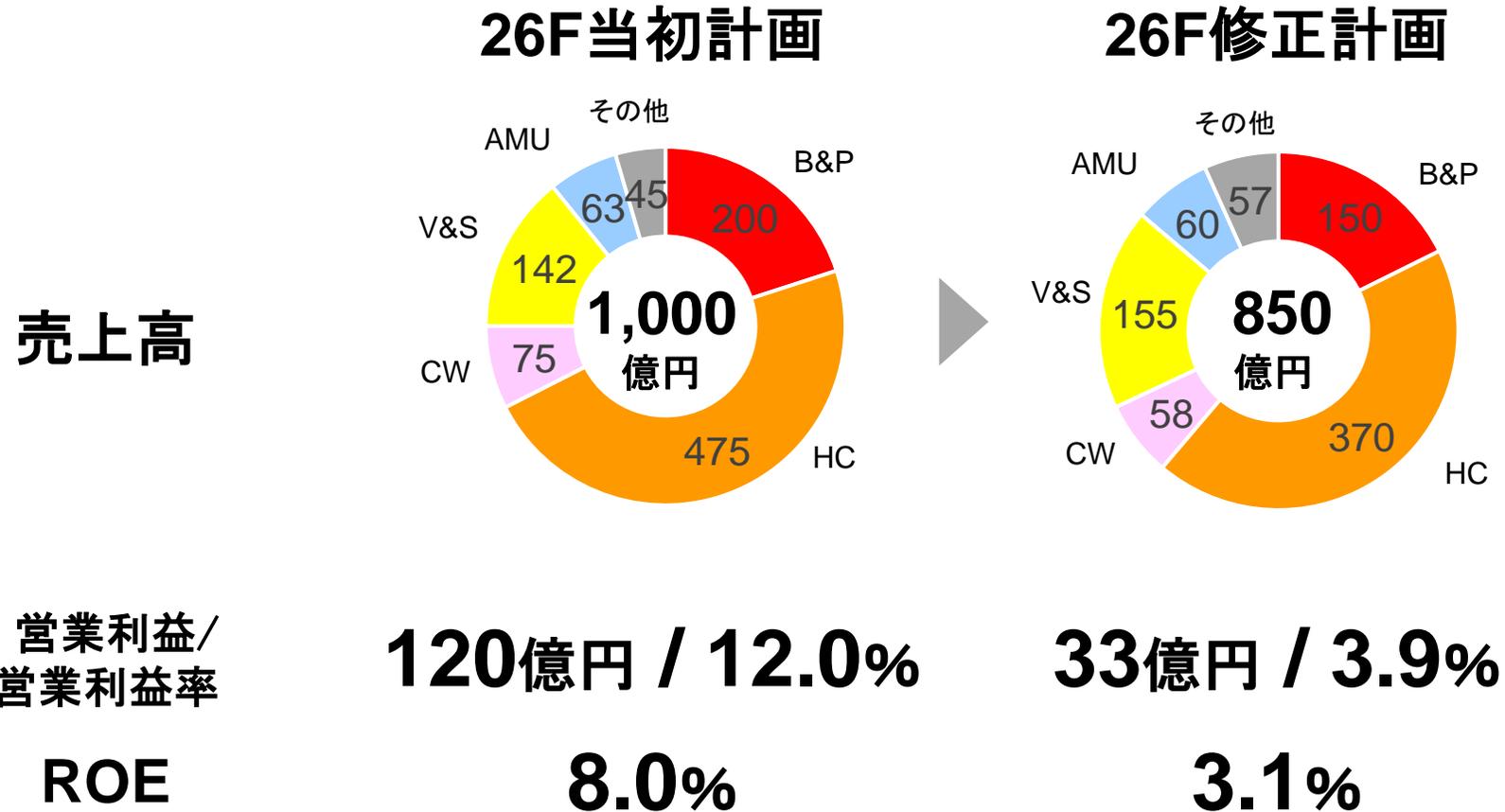
EIZO株式会社

サマリー アップデート

目指す方向性	<ul style="list-style-type: none">● 映像価値を最大化する製品・サービスで社会課題を解決し事業領域を拡大
課題	<ul style="list-style-type: none">● 稼ぐ力の回復に向けた収益基盤の強化
26F数値目標	<ul style="list-style-type: none">● 外部環境の大きな変化を受け、下方修正● 売上高 850億円(当初計画比▲150億円)、営業利益 33億円(同▲87億円)● V&Sは更なる成長見込み。B&P/クリエイティブワークは販売回復に努める● 復調しているヘルスケアは主力の欧州に加え、米/中/インド/中東で成長に向け事業を強化● コストコントロールにより固定費は25F並みに抑える
事業戦略	<ul style="list-style-type: none">● 成長戦略に向けた施策をスピードアップし実行● 競争力ある新製品の販売● 欧州依存度/リスク低減 インド・中東の市場開拓、米・中でのヘルスケアシェア拡大
財務戦略	<ul style="list-style-type: none">● ROE 8%未達も純資産コントロールは一定の効果・継続、稼ぐ力の回復と向上を目指す● 政策保有株式の縮減 27Fまでに連結純資産に対する比率15%、30Fまでに10%未満へ● 純投資目的株式の活用 将来の成長投資(M&A)に活用へ● 株主還元は計画通り実施 25Fで13期連続増配(予定)

26F数値目標(見直し)

- 欧州市場の低迷長期化、日本の病院経営悪化による需要先送りや地政学リスクの高まりなど、当初計画作成時からの事業環境の大幅な変化を踏まえ、26F計画を下方修正



26F数値目標の前提

- 欧州市場は急回復を前提とせず、B&P及びクリエイティブワークは横ばいで推移すると想定
- V&Sは堅調な需要を背景に受注案件積上げにより成長見込み収益回復をけん引
- ヘルスケアは、日本では病院経営悪化の影響を受け軟調販売底打ちした海外は主力の欧州に加え、北米・中国・インド・中東で事業展開強化し、販売回復見込み
- コストコントロールに努め、賃上げや研究開発投資は継続しつつ、合理化の取組みにより、固定費は25F並みに抑制
- 26Fを「稼ぐ力の回復」の年と位置づけ、27Fを初年度とする次期中期経営計画で持続的なROE向上のロードマップを提示

注意事項

当資料には、当社または当社グループ会社の業績見通し、計画、方針、経営戦略、予定等、将来に関する記述が含まれています。これら将来に関する記述は、為替変動や需要変動、調達リスク、その他の既知・未知のリスクや不確定要素を含みますので、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が、実体的に異なる場合があります。

また、当社は法令に定めのある場合を除き、このような将来予測に基づく記載を更新する義務を負いません。

※資料内の会計期間の表記は“F”を用いております。2027年3月期は“26F”となります。

市場区分一覧

市場区分	使用用途・場所
B&P (Business & Plus)	金融機関、公共機関、文教施設、CAD、商業施設、一般オフィス、ホームオフィス
ヘルスケア (HC)	診断・検査、治療・手術、医療IT
クリエイティブワーク (CW)	映像制作、3DCG、プロフォト、ハイアマチュアフォト、イラスト、デザイン、出版・印刷
V&S (Vertical & Specific)	社会インフラや産業機器で求められる多種多様な用途 航空管制、船舶、監視、ディフェンス、その他産業用途(タッチモニター含む)
アミューズメント (AMU)	パチンコ・パチスロ遊技機に搭載される液晶モニター
その他 (OTH)	保守サービス及びソフトウェアの受託開発

本資料に関するお問合せ 担当：IR室 有生(ありせ) TEL：076-275-4121



Visit us online
www.eizo.co.jp